日本脳炎予防接種について

病気（日本脳炎）の説明

日本脳炎ウイルスの感染で起きます。ヒトから直接ではなくブタなどの体内で増えたウイルスが蚊によって媒介され感染します。

7～10 日の潜伏期間の後、高熱、頭痛、嘔吐、意識障害、けいれんなど症状を示す急性脳炎になることがあります。ヒトからヒトへの感染はありません。

日本脳炎ウイルスに感染した人のうち 100～1,000 人に 1 人が脳炎等を発症します。脳炎のほか髄膜炎や夏かぜ様の症状で終わる人もいます。脳炎にかかった時の死亡率は約 20～40%ですが、治った後に神経の後遺症を残す人が多くいます。

乾燥細胞培養日本脳炎ワクチン（不活化ワクチン）

現在国内で使用されている乾燥培養日本脳炎ワクチンは、ベロ細胞という細胞でウイルスを増殖させ、ホルマリンなどでウイルスを殺し（不活化）、精製したものです。

副反応について

医療機関から副反応の疑い例（有害事象）として報告されたうちの重篤症例の発生頻度は、10 万接種当たり 0.7 となっています。

接種時期

	標準接種年齢	接種可能年齢	接種方法
1 期初回	3 歳	3 歳以上 7 歳 6 か月未満	6 日以上の間隔で 2 回接種
1 期追加	4 歳	3 歳以上 7 歳 6 か月未満	1 期初回接種終了後、6 か月以上の間隔をあけて 1 回接種
2 期	9 歳	9 歳～13 歳未満	1 回接種

予防接種の特例

Ⅰ　平成19年4月1日以前生まれの方で接種機会を逃した方は、20歳になるまでの間、不足回数分を公費で接種することができます。